

SVS Vascular Annual Meeting 2024 参加報告

済生会宇都宮病院 心臓血管外科
亀田柚妃花

この度、私は第 52 回日本血管外科学会学術総会で、「B 型大動脈解離の Preemptive TEVAR の適応決定に flap の可動性の評価が重要である ～多施設共同研究からの報告～」と題した演題を発表し、光栄にも最優秀演題賞を受賞した副賞として、米国血管外科学会(SVS)の Vascular Annual Meeting(VAM) 2024 で発表する機会を頂きましたので、以下にご報告致します。

VAM 2024 は 6/18-6/21 の 4 日間、Illinois 州 Chicago にある McCormick Place で開催されました。シカゴはニューヨーク、ロサンゼルスに次ぐ、アメリカ第 3 の大都市ですが、近代高層ビルが立ち並ぶ一方で五大湖のひとつミシガン湖にも面しており、自然にも恵まれた美しい街でした。シカゴ美術館が有名ですが、街中の至る所にアートスポットがあり、街歩きだけでもシカゴを堪能できました。

さて、そんな魅力溢れるシカゴでの VAM 開催、今回私は International Chapter Forum という、SVS の国際支部の代表者が発表するセッションで、10 分間の口演発表を行いました。日本の学術総会では同時並行で複数の会場で発表が行われることが多いですが、VAM では同時間帯の発表が少なく、一つの会場に多くの参加者が集まり、活発なディスカッションが繰り広げられていました。私の発表にも複数の質問を頂き、純ジャパニーズの自分が持つ限りの英語で何とか対応しましたが、国際学会の場で自分の演題に興味を持って質問を頂けたことに対して嬉しさも感じました。このような経験が今後の学術活動の糧になると感じ、私の VAM での発表を終えました。

学会は非常に活気溢れており、企業の展示ブースでは日本に導入されていない新しいデバイスを実際に触れる機会もありました。大血管領域のセッションでは胸腹部瘤の fenestrated/branch ステントグラフト治療に関連した演題が多く、自作開窓デバイスや各企業製 fenestrated/branch の成績が目撃されていました。メイン会場に集まる血管外科医の熱気を通して、血管外科分野の最新の研究や注目されているトピックを肌で感じる事ができました。また、学会で発表している女性血管外科医が多いことも印象的でした。特に私が発表したセッションの座長は 2 名とも女性で、同じセッションでは各国を代表して多くの女性血管外科医が発表していました。日本でも年々女性医師の割合は増加していますが、心臓血管外科領域では未だ1割にも満たないのが現状です。近い将来、日本の学術集会でもこのような光景が見られる日が来ると信じて、一女性心臓血管外科医として自分も走り続けたいという思いを強くしました。

最後になりますが、このような大変貴重な機会を頂いたのは JSVS の運営に関わる先生方及び会員の皆様、日々ご指導を頂いている志水教授、そして橋詰先生をはじめ当院スタッフのお陰であり、皆様に改めてこの場を借りて深く感謝申し上げます。

以上、SVS・VAM の参加報告とさせていただきます。

